

# 眼科学

担当講座	眼科学講座	問合せ先	眼科学講座
分野責任者	黒坂 大次郎 教授	連絡先	内線6582
担当教員	黒坂 大次郎 教授 橋爪 公平 特任准教授 新田 順福 講師 及川 誠 講師 今泉 利康 講師 橋浦 哲哉 講師 伊藤 倫一胤 助教 清野 太郎 助教 福田 一央 助教 大島 広之 助教 亀井 翔太 助教		
人材育成の 基本理念	幅広い知識を有し、眼科の基礎・臨床研究に必要な手法や研究遂行能力を備えた眼科学領域の臨床医を育成する。		
主な研究内容	眼科疾患の病態解明・高度の診療および予防に関する基礎的・臨床的研究を行う		
教育成果 (アウトカム)	教育成果	該当するディプロマポリシー	
	(1) 眼球および付属器の解剖・生理に関する知識を習得する。 (2) 主要眼科疾患の病態生理についての知識を習得する。 (3) 主要眼科疾患の診断能力を習得する。 (4) 主要眼科疾患の治療に関する知識を習得し、治療を習得する。 (5) 基礎研究で得られた知識を眼科臨床に還元する。	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8	
到達目標	到達目標	対象科目	
	(1)生命科学や、医学研究のための基本的な知識を活用できる。	ベーシックセミナー	
	(2)適切な研究デザイン、解析法を立案し実施できる。	研究方法論	
	(3)得られた研究結果を正しく解釈できる。	特別研究ⅠⅡⅢ	
	(4)解析結果ををまとめ、発表できる(英文が望ましい)。	特別研究ⅠⅡⅢ	
	(5)病因の解明や治療法の発展に寄与できる。	特別研究ⅠⅡⅢ	
	(6)次世代の人材育成に貢献できる。	特別研究ⅡⅢ、大学院セミナー	
	(7)眼科一般診療および治療に必要な機器を適切に操作できる。	眼科学特論1、2、水晶体疾患学、角膜疾患学、ぶどう膜疾患学、網脈絡膜疾患学1、2、全身疾患学、緑内障学、神経眼科学、小児眼科学、涙道疾患学	
	(8)眼科領域の基礎研究並びに臨床研究を行うことにより、眼科疾患の発症機序及び病態を説明できる。	眼科学特論1、2、水晶体疾患学、角膜疾患学、ぶどう膜疾患学、網脈絡膜疾患学1、2、全身疾患学、緑内障学、神経眼科学、小児眼科学、涙道疾患学	
	(9)眼科領域の基礎研究並びに臨床研究を行うことにより、眼科疾患の診断が適切にできる。	眼科学特論1、2、水晶体疾患学、角膜疾患学、ぶどう膜疾患学、網脈絡膜疾患学1、2、全身疾患学、緑内障学、神経眼科学、小児眼科学、涙道疾患学	
	(10)眼科領域の基礎研究並びに臨床研究を行うことにより、眼科疾患の検査所見を適切に評価できる。	眼科学特論1、2、水晶体疾患学、角膜疾患学、ぶどう膜疾患学、網脈絡膜疾患学1、2、全身疾患学、緑内障学、神経眼科学、小児眼科学、涙道疾患学	
	(11)眼科領域の基礎研究並びに臨床研究を行うことにより、眼科疾患の説明・実施が適切にできる。	眼科学特論1、2、水晶体疾患学、角膜疾患学、ぶどう膜疾患学、網脈絡膜疾患学1、2、全身疾患学、緑内障学、神経眼科学、小児眼科学、涙道疾患学	
	(12)眼科領域の基礎研究並びに臨床研究を行うことにより、眼科疾患の手術適応を説明できる。	眼科学特論1、2、水晶体疾患学、角膜疾患学、ぶどう膜疾患学、網脈絡膜疾患学1、2、全身疾患学、緑内障学、神経眼科学、小児眼科学、涙道疾患学、眼科手術学	
	(13)眼科領域の基礎研究並びに臨床研究を行うことにより、眼科疾患の保存的知慮の適応を説明できる。	眼科学特論1、2、水晶体疾患学、角膜疾患学、ぶどう膜疾患学、網脈絡膜疾患学1、2、全身疾患学、緑内障学、神経眼科学、小児眼科学、涙道疾患学	
	(14)眼科領域の基礎研究並びに臨床研究を行うことにより、眼科疾患の治療を説明できる。	眼科学特論1、2、水晶体疾患学、角膜疾患学、ぶどう膜疾患学、網脈絡膜疾患学1、2、全身疾患学、緑内障学、神経眼科学、小児眼科学、涙道疾患学、眼科手術学	
(15)眼科領域の基礎研究並びに臨床研究を行うことにより、基本的な眼科疾患の治療ができる。	眼科学特論1、2、水晶体疾患学、角膜疾患学、ぶどう膜疾患学、網脈絡膜疾患学1、2、全身疾患学、緑内障学、神経眼科学、小児眼科学、涙道疾患学、眼科手術学		
資格取得等	眼科専門医の取得を目指す。		
履修に関する 情報	社会人大学院生など、勤務等で授業に参加できない場合は、日程調整に応じる。入学時より前半の2年間の間に共通教育科目の必修科目「研究方法論」に加えて、選択必修科目を履修することが望ましい。(問合せ先:眼科学講座・内線6582)。		

## ●在学中に履修できるカリキュラム

区分	配当年次	科目名	開講	コマ数	単位	修了までに 必要な単位	備考
研究特論	選択必修	講義 眼科学特論1	通年	30	4	20単位	※20単位以上の取得可
		講義 眼科学特論2	通年	30	4		
		演習 角膜疾患学	通年	15	2		
		演習 水晶体疾患学	通年	15	2		
		演習 ぶどう膜疾患学	通年	15	2		
		演習 網脈絡膜疾患学1	通年	15	2		
		演習 網脈絡膜疾患学2	通年	15	2		
		演習 全身疾患学	通年	15	2		
		演習 眼科手術学	通年	60	8		
		演習 緑内障学	通年	15	2		
		演習 神経眼科学	通年	15	2		
		演習 小児眼科学	通年	15	2		
演習 涙道疾患学	通年	15	2				
特別研究	必修	2年 特別研究Ⅰ(初期審査)	通年	8	1	4単位	※2021年度以降入学者 対象科目
		3年 特別研究Ⅱ(中間審査)	通年	8	1		
		4年 特別研究Ⅲ(論文作成)	通年	15	2		

※他分野の単位取得は分野責任者に相談の上、教務課へ連絡してください。

●各科目の授業計画

眼科学

コード	MD15191010					MD15191020					MD15191030					MD15191040				
科目	眼科学特論 1					眼科学特論 2					角膜疾患学					水晶体疾患学				
科目責任者	黒坂大次郎					黒坂大次郎					橋浦哲哉					黒坂大次郎				
担当者	黒坂大次郎					黒坂大次郎					橋浦哲哉					黒坂大次郎				
会場	カンファレンスルーム					カンファレンスルーム					眼科外来・病棟・カンファレンスルーム					眼科外来・病棟・カンファレンスルーム				
区分等	区分	講義	単位	4		区分	講義	単位	4		区分	演習	単位	2		区分	演習	単位	2	
	回数	通年30コマ		配当年次	1~4	回数	通年30コマ		配当年次	1~4	回数	通年15コマ		配当年次	1~4	回数	通年15コマ		配当年次	1~4
主な授業内容	眼科臨床総論					眼科臨床総論					角膜疾患の病態理解・診断・治療					水晶体疾患の病態理解・診断・治療				
教育成果	眼科学を学び、基本的な眼疾患の病態を理解し、診断と治療法がわかる。					眼科学を学び、基本的な眼疾患の病態を理解し、診断と治療法がわかる。					角膜疾患の基本的な眼疾患の病態を理解し、診断と治療法がわかり、実践できる。					水晶体疾患の基本的な眼疾患の病態を理解し、診断と治療法がわかり、実践できる。				
コピー番号/達成度	コピー1	コピー2	コピー3	コピー4	コピー5	コピー1	コピー2	コピー3	コピー4	コピー5	コピー1	コピー2	コピー3	コピー4	コピー5	コピー1	コピー2	コピー3	コピー4	コピー5
	C	C	C	C	C	B	B	B	B	B	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
特記事項	各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 【2021年度以降の入学者】 全講義終了後は速やかに「受講票・履修報告書」をWeb Classにアップロードすること。 「受講票・履修報告書」の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。 【2020年度までの入学者】講義の出欠は履修手帳で管理する。 <当該科目に関連する実務経験の有無 有> 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。																			
	【2021年度以降の入学者】「受講票・履修報告書」により総合的に評価する。成績は、ABCD (A:100~80点、B:79~70点、C:69~60点、D:59~0点) の4段階評価とし、ABC (60点以上) を合格とする (60点未満は再提出)。 【2020年度までの入学者】出席、レポートなどにより総合的に評価する。																			
評価方法	【2021年度以降の入学者】「受講票・履修報告書」により総合的に評価する。成績は、ABCD (A:100~80点、B:79~70点、C:69~60点、D:59~0点) の4段階評価とし、ABC (60点以上) を合格とする (60点未満は再提出)。 【2020年度までの入学者】出席、レポートなどにより総合的に評価する。																			
講義日程	時間割参照																			
教科書 参考書																				

コード	MD15191050					MD15191060					MD15191070					MD15191080				
科目	ぶどう膜炎学					網脈絡膜疾患学1					網脈絡膜疾患学2					全身疾患学				
科目責任者	橋爪公平					及川誠					伊藤倫一胤					新田順福				
担当者	橋爪公平					及川誠					伊藤倫一胤					新田順福				
会場	眼科外来・病棟・カンファレンスルーム					眼科外来・病棟・カンファレンスルーム					眼科外来・病棟・カンファレンスルーム					眼科外来・病棟・カンファレンスルーム				
区分等	区分	演習	単位	2		区分	演習	単位	2		区分	演習	単位	2		区分	演習	単位	2	
	回数	通年15コマ		配当年次	1~4	回数	通年15コマ		配当年次	1~4	回数	通年15コマ		配当年次	1~4	回数	通年15コマ		配当年次	1~4
主な授業内容	ぶどう膜炎の病態理解・診断・治療					網脈絡膜疾患の病態理解・診断・治療					網膜硝子体疾患の病態理解・診断・治療					全身疾患に関わる眼科疾患の病態理解・診断・治療				
教育成果	ぶどう膜炎の基本的な眼疾患の病態を理解し、診断と治療法がわかり、実践できる。					網脈絡膜疾患の基本的な眼疾患の病態を理解し、診断と治療法がわかり、実践できる。					網脈絡膜疾患の基本的な眼疾患の病態を理解し、診断と治療法がわかり、実践できる。					全身疾患に関わる眼科疾患の基本的な眼疾患の病態を理解し、診断と治療法がわかり、実践できる。				
コピー番号/達成度	コピー1	コピー2	コピー3	コピー4	コピー5	コピー1	コピー2	コピー3	コピー4	コピー5	コピー1	コピー2	コピー3	コピー4	コピー5	コピー1	コピー2	コピー3	コピー4	コピー5
	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
特記事項	各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 【2021年度以降の入学者】 全講義終了後は速やかに「受講票・履修報告書」をWeb Classにアップロードすること。 「受講票・履修報告書」の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。 【2020年度までの入学者】講義の出欠は履修手帳で管理する。 <当該科目に関連する実務経験の有無 有> 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。																			
	【2021年度以降の入学者】「受講票・履修報告書」により総合的に評価する。成績は、ABCD (A:100~80点、B:79~70点、C:69~60点、D:59~0点) の4段階評価とし、ABC (60点以上) を合格とする (60点未満は再提出)。 【2020年度までの入学者】出席、レポートなどにより総合的に評価する。																			
評価方法	【2021年度以降の入学者】「受講票・履修報告書」により総合的に評価する。成績は、ABCD (A:100~80点、B:79~70点、C:69~60点、D:59~0点) の4段階評価とし、ABC (60点以上) を合格とする (60点未満は再提出)。 【2020年度までの入学者】出席、レポートなどにより総合的に評価する。																			
講義日程	時間割参照																			
教科書 参考書																				

●各科目の授業計画

眼科学

コード	MD15191090					MD15191100					MD15191110					MD15191120				
科目	眼科手術学					緑内障学					神経眼科学					小児眼科学				
科目責任者	橋浦哲哉					及川誠					橋浦哲哉					今泉利康				
担当者	橋浦哲哉					及川誠					橋浦哲哉					今泉利康				
会場	中央手術室					眼科外来・病棟・カンファレンスルーム					眼科外来・病棟・カンファレンスルーム					眼科外来・病棟・カンファレンスルーム				
区分等	区分	演習	単位	8		区分	演習	単位	2		区分	演習	単位	2		区分	演習	単位	2	
	回数	通年60コマ	配当年次	1~4		回数	通年15コマ	配当年次	1~4		回数	通年15コマ	配当年次	1~4		回数	通年15コマ	配当年次	1~4	
主な授業内容	眼科手術の基本手技・原理の習得					緑内障疾患の病態理解・診断・治療					神経眼科疾患の病態理解・診断・治療					小児眼科疾患の病態理解・診断・治療				
教育成果	眼科手術の基本原理解を説明でき、実際に基本的主義が実践できる。					緑内障疾患の基本的な眼疾患の病態を理解し、診断と治療法がわかり、実践できる。					神経眼科疾患の基本的な眼疾患の病態を理解し、診断と治療法がわかり、実践できる。					小児眼科疾患の基本的な眼疾患の病態を理解し、診断と治療法がわかり、実践できる。				
コピーテス番号/達成度	コピーテス1	コピーテス2	コピーテス3	コピーテス4	コピーテス5	コピーテス1	コピーテス2	コピーテス3	コピーテス4	コピーテス5	コピーテス1	コピーテス2	コピーテス3	コピーテス4	コピーテス5	コピーテス1	コピーテス2	コピーテス3	コピーテス4	コピーテス5
	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
特記事項	各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 【2021年度以降の入学者】 全講義終了後は速やかに「受講票・履修報告書」をWeb Classにアップロードすること。 「受講票・履修報告書」の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。 【2020年度までの入学者】講義の出欠は履修手帳で管理する。 <当該科目に関連する実務経験の有無 有> 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。																			
	【2021年度以降の入学者】「受講票・履修報告書」により総合的に評価する。成績は、ABCD (A:100~80点、B:79~70点、C:69~60点、D:59~0点)の4段階評価とし、ABC (60点以上)を合格とする(60点未満は再提出)。 【2020年度までの入学者】出席、レポートなどにより総合的に評価する。																			
講義日程	時間割参照																			
教科書参考書																				

コード	MD15191130					MD15199010					MD15199020					MD15199030				
科目	涙道疾患学					特別研究 I					特別研究 II					特別研究 III				
科目責任者	清野太郎					各(正)指導教員					各(正)指導教員					各(正)指導教員				
担当者	清野太郎					各指導教員					各指導教員					各指導教員				
会場	眼科外来・病棟・カンファレンスルーム					各指導教員と相談の上決定					各指導教員と相談の上決定					各指導教員と相談の上決定				
区分等	区分	演習	単位	2		区分	演習	単位	1		区分	演習	単位	1		区分	演習	単位	2	
	回数	通年15コマ	配当年次	1~4		回数	通年8コマ	配当年次	2		回数	通年8コマ	配当年次	3		回数	通年15コマ	配当年次	4	
主な授業内容	涙道疾患の病態理解・診断・治療					・生命科学や研究手法の基礎的な知識 ・研究計画調書の作成・初期審査の準備					・生命科学や研究手法の専門的な知識 ・中間審査の準備					・生命科学や研究手法の発展的な知識 ・論文作成・最終試験の準備				
教育成果	涙道疾患の基本的な眼疾患の病態を理解し、診断と治療法がわかり、実践できる。					生命科学や研究手法の基礎的な知識を身につける。研究内容の討議を行い、質問に対し、適切に答えることができる。 <初期審査>2年次末までに実施。研究指導教員同席のもと非公開で実施する。研究計画調書等に基づき、研究の概要について口答で説明し、その妥当性について審査を受け、今後の研究の進め方について指導を受ける。					生命科学や研究手法の専門的な知識を身につける。研究内容の討議を行い、質問に対し、適切に答えることができる。 <中間審査>3年次末までに実施。研究指導教員同席のもと非公開で実施する。研究計画調書に基づき、研究の概要及び進捗状況について口答で説明し、現在に至るまでの過程及び初期審査時の目標の達成度等について審査を受け、今後の研究の進め方について指導を受ける。					生命科学や研究手法の発展的な知識を身につける。最終試験に向けて、情報を適切に分析し、論旨を展開できる。 <論文作成>学位申請までに実施。論文作成に向けたデータ収集や解釈、図譜の作成や記載ができ、論文を作成できる。				
コピーテス番号/達成度	コピーテス1	コピーテス2	コピーテス3	コピーテス4	コピーテス5	コピーテス1	コピーテス2	コピーテス3	コピーテス4	コピーテス5	コピーテス1	コピーテス2	コピーテス3	コピーテス4	コピーテス5	コピーテス1	コピーテス2	コピーテス3	コピーテス4	コピーテス5
	A	A	A	A	A	C	C	C	C	C	B	B	B	B	B	A	A	A	A	A
特記事項	各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 【2021年度以降の入学者】 全講義終了後は速やかに「受講票・履修報告書」をWeb Classにアップロードすること。 「受講票・履修報告書」の記載が不十分な場合は、担当教員がコメントをつけて返却するので、期日までに再提出すること。 【2020年度までの入学者】 講義の出欠は履修手帳で管理する。 <当該科目に関連する実務経験の有無 有> 大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。																			
						各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 初期審査の詳細は、「初期・中間審査の手引き」を参照。					各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 中間審査の詳細は、「初期・中間審査の手引き」を参照。					各講義に対する事前事後学修は4時間程度を要し、内容は担当教員に確認すること。 最終試験の詳細は、「最終試験の手引き」を参照。				
評価方法	【2021年度以降の入学者】「受講票・履修報告書」により総合的に評価する。成績は、ABCD (A:100~80点、B:79~70点、C:69~60点、D:59~0点)の4段階評価とし、ABC (60点以上)を合格とする(60点未満は再提出)。 【2020年度までの入学者】出席、レポートなどにより総合的に評価する。					「受講票」により総合的に評価する。成績は、ABCD (A:100~80点、B:79~70点、C:69~60点、D:59~0点)の4段階評価とし、ABC (60点以上)を合格とする(60点未満は再提出)。														
講義日程	時間割参照																			
教科書参考書																				

## ●時間割

## 眼科学

【前期】 講義時間		月	火	水	木	金	土
1 限	8:50~10:20	水晶体疾患学					共通教育科目
2 限	10:30~12:00	眼科手術学	眼科手術学	眼科手術学	涙道疾患学	眼科手術学	
3 限	13:00~14:30	ぶどう膜炎学	角膜疾患学	特別研究Ⅰ~Ⅲ	神経眼科学		
4 限	14:40~16:10	小児眼科学	緑内障学	網脈絡膜疾患学1	全身疾患学	網脈絡膜疾患学2	
5 限	18:00~19:30	眼科学特論1					
6 限	19:40~21:10	眼科学特論2					
【後期】 講義時間		月	火	水	木	金	土
1 限	8:50~10:20	水晶体疾患学			眼科手術学		共通教育科目
2 限	10:30~12:00	眼科手術学	眼科手術学	眼科手術学	涙道疾患学	眼科手術学	
3 限	13:00~14:30	ぶどう膜炎学	角膜疾患学	特別研究Ⅰ~Ⅲ	神経眼科学		
4 限	14:40~16:10	小児眼科学	緑内障学	網脈絡膜疾患学1	全身疾患学	網脈絡膜疾患学2	
5 限	18:00~19:30	眼科学特論1					
6 限	19:40~21:10	眼科学特論2					

<履修スケジュール> ※各自記録してください。

【前期】 講義時間		月	火	水	木	金	土
1 限	8:50~10:20						
2 限	10:30~12:00						
3 限	13:00~14:30						
4 限	14:40~16:10						
5 限	18:00~19:30						
6 限	19:40~21:10						

【後期】 講義時間		月	火	水	木	金	土
1 限	8:50~10:20						
2 限	10:30~12:00						
3 限	13:00~14:30						
4 限	14:40~16:10						
5 限	18:00~19:30						
6 限	19:40~21:10						